

「 地域課題探求型学修 KIZUKI プロジェクト 」

学校名	岩手県立岩泉高等学校
-----	------------

○岩泉町

面積 992.36 km²

東西 51km 南北 41km (参考値：盛岡駅-北上駅間が約 46km)

人口 9,613 人 4489 世帯 (H29.12 現在)

耕地面積は少なく、林野率が高い。小本川、安家川、摂待川の流域に沿って集落を形成。東日本大震災津波の復興半ば、2016 年台風 10 号豪雨災害で町のほぼ全域が被災。

○岩泉高等学校

地域の青少年教育の必要性が高まる中、明治から昭和にかけて続いた凶作・凶事による食糧難の解決のために町立農業学校として 1943 年に設置されたことから始まる。

現在は県立の普通科高校、岩泉・田野畑地域唯一の高校として、2013 年に創立 70 周年を迎え、今年度は 149 名の生徒が在籍している。(1 年生 49 名、2 年生 47 名、3 年生 54 名)

○地域課題探求型学修 KIZUKI プロジェクトで目指すもの

地域の様々な組織との連携の下、生徒が地域と直接向き合うことで、自分自身と地域の関わり方、つながり方を広げ、「グローバルな視点」と「課題を我が事として考える視点」に気づき、課題解決力と価値生産力を築く。

⇒本県がキャリア教育で目指す「総合生活力」「人生設計力」の育成

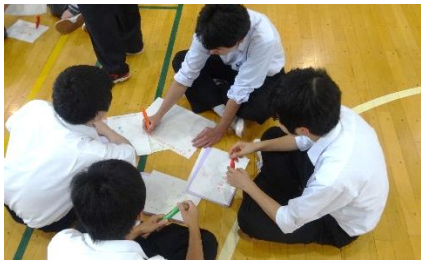
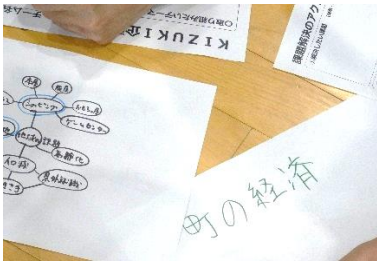
復興教育の定義である 3 つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」の育成





※グローバル グローバル (Global : 地球規模の) とローカル (Local : 地域的な) を掛け合わせた造語
地球規模の視野で考え、地域視点で行動する考え方 (Think globally, act locally)

○協力組織

岩泉町地域づくり支援協議会、岩泉町役場、社会福祉協議会、町内企業・NPO など

○日程 (総合的な学習の時間を利用)

課題を知る グループ作り 仮設定	6/27	<p>講演「社会に求められる力とは～社会に開かれた学びの重要性～」 講師 東北学院大学特任准教授 菊池広人氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題」と「課題」の違いとは ・これまでとこれからの「学び」と「働き方」の違いとは ・進路選択において今求められている「力」とは ・今回のプロジェクトで目的としていることとは <p>ワークショップ「地域の課題を見つけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で「地域の課題」に関して、イメージを具体化する ・各々が取り組みたい地域の課題を設定 ・設定した課題が似た生徒 5 名程度で集まる ・グループで地域の課題の「仮説」を設定
		 

仮説検証 計画立て	夏休み	町内外での体験や聞き取りを行い、夏休み前に立てた仮説が正しいか検証を行う。 課題解決のためのアクション計画を立てる。
アクション	9/21	課題解決のためのアクションを実施 (例) イベントで地域を盛り上げ隊(小学校の生活科で収穫祭進行) 防災知識を備えよう!(地域住民を集めDIG) 岩泉の健康寿命を延ばす!(福祉施設で健康体操) 農業振興(農業お手伝いと情報発信) サロンバスに乗ってみよう(傾聴ボランティア) アピールしようぜ龍泉洞(着ぐるみに入り、観光客へPR)  (サロンバス車内)  (わさび農家での体験)
結果・考察	9/28	振り返り
発表	9/30 文化祭	全グループ模造紙発表 各学年1グループずつパワーポイントを用い、ステージ発表
発展	10月	「自分の未来像」を探るため、「各組織の今」を見学 ※本校は「いわての復興教育スクール指定校」でもあります。 1年生(防災・復興教育デー 10/25) 宮古市田老の防潮堤および太郎観光ホテルの見学 三陸復興道路の工事現場の見学 2年生(インターンシップ 10/25から3日間) 役場、図書館、消防、こども園、町内商店・企業など 3年生(防災・復興教育デー 10/26, 10/30) 岩泉町消防署長による講義(発災時の対応や各地の状況など) 避難所運営ゲーム(HUG)実践(自助・共助) 岩泉町役場復興課職員による講義(公助) 岩泉乳業社長の講義・岩泉乳業工場見学  (1年 工事作業中トンネル見学)  (3年 HUGの様子)

○今年度の課題、来年度にむけての改善点
初めての取組ということもあり、教員の情報共有不足から、生徒への落とし込みが不十分であった。また、受け身の生徒が多く、ぎりぎりまで計画が定まらないグループがあった。
現在は今年度の模範グループを参考に、総合学習の年間計画を見直し、全生徒が自分事として問題意識を持てるように教員の担当のあり方や、生徒への関わり方を検討している。